

# 格差社会を容認してもよいのか？

「不況を脱するため格差が出て仕方がない」

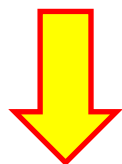
「国際的な競争力をつけるには日本にもっと競争促進策を導入し、強い経済にしなければならない」

と多くの国民は考えている



経済効率が重要であり、格差が増えてもやむをえない

経済効率を高めるため貧富の格差が拡大するのはやむをえない



効率性と公平性のトレードオフ

公平性を犠牲にしなければ効率性は高まらないという考え方

# 収穫逡減の法則

その要素を高めれば高めるほど、その期待できる効果は逡減する  
公平性を犠牲にすることが、必ずしも効率性を高めるとは言えない

## 貧困者増大がもたらす問題

経済効果・資源のロス・犯罪の増大・社会負担の増大・倫理的な問題

米社会

・格差社会の代表


『ゲートド・タウン』 ⇒ 富裕層

『ゲッター』 ⇒ 貧困層

健康格差 → 保険制度の仕組み

日本でも起りつつある

## ニート: 学校に言っておらず、職業についていない若者

1993年 40万人台      2002年 60万人越  10年で20万人増大

### 問題点

「ニート」という言葉が登場する前から無職の若者が相当数存在していた。

2000年代に入り30歳前後の壮年のニートの増加

※ニートのうちの50%以上が25~34歳(2002年)

## フリーター

1982年 50万人      2002年 417万人       20年で4倍以上

### フリーターになるもの

学歴の低い人たち

自分から進んでなる者(夢追い型)・やむを得ずなってしまった者

※夢追い型は好きなことをするために、生活していける分だけバイトで所得を得るタイプ

1度フリーターになってしまうと、フルタイムには容易に転換できない

生涯賃金(22歳~)

パート:4637万円

常用の非正規労働:1億426万円

正社員:2億791万円



所得格差の拡大

フリーター:多くのフリーターが最低限ギリギリの生活が出来る程度の所得しかない

ニート:多くの場合、親の経済的支援に頼っている状態。親が病気になったり、亡くなると、貧困層へ一気に転換してしまう



何らかの対策を行わなければ、将来**貧困者を多く生む**という意味で、

**深刻な事態を招くことは明らかである**

# 機会の不平等化が進行

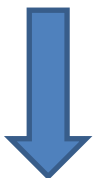


親の所得や階層、職業などが子供の教育水準に影響を与える

格差拡大を容認する考え



競争を活性化  
経済効果を上げる必要性



不平等化が進行

親の階層を子供が受け継ぐような固定化に向かう恐れがある

階層固定化の問題

プロ野球選手: 親の成功により他の選手より機会が与えられた  
息子の能力と努力次第で優れているか判断できる

政治家: 親が政治家であればその子供が政治家になるのが有利に  
子供が優秀とは限らない・能力を解りやすい形で判断できない

危惧:親が政治家という理由のみで、もし無能な政治家が誕生すれば国民にとって  
危機的な状況を引き起こす可能性がある

イギリスでは階層固定化が世代を超えて続いている ⇒ 階級観で言葉も違う

ブレア首相のようなエリート      オックスブリッジの英語を使う  
有名なサッカー選手のベッカム      ワーキングクラスの英語を使う

日本は現在階層固定化に向かいつつある      国家の将来像に関わる重要な問題

格差は必ず存在する 格差がゼロの社会はあり得ない!!

有能な人 ⇒ そうでない人

頑張る人 ⇒ 怠ける人

健康な人 ⇒ 生まれつきハンデのある人      能力・性格...

何処まで格差を容認するかは個人の考えや価値判断に作用される

## 格差の上層と下層の差

何処まで差を縮めればよいかor縮める必要がないか  
貧困者の存在は容認

下層が全員貧困層でなくなるためには

上層と下層の差の存在を認める  
貧困者ゼロの社会を想定

**有能な人が報われる社会 ⇒ 文化・技術の発展に貢献**

Ex)アメリカ

社長の年収:一般社員の100倍超

有能な人・頑張った人には高い報酬

- ・勝者と敗者 ⇒ 敗者をどう扱うか
- ・機会の平等が与えられない人が多い

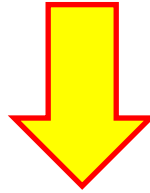


何処まで格差を認めるかは国民の判断(選挙のテーマ)

# 格差と企業の生産性

Ex)トヨタの社長の所得  
アメリカの社長より相当低い  
一般社員との格差が小さい

トヨタ: 非常に**効率の良い生産性**



社長と一般社員の所得格差は低い方が良いのではないか？